

火災や災害のない町を願って 厚真消防出初式



雪が降る中、厚真市街地を行進する消防団員

1月6日、厚真消防団（五十嵐次男団長）と消防署厚真支署の合同出初式が総合福祉センターで行われました。

式典に先駆け、胆振東部消防組合管理者の宮坂町長や来賓、地域住民などが見守る中、65人の職団員と車両7台が厚真市街地を分列行進しました。

式典では平成30年北海道胆振東部地震の人命救助や安全確保に尽力したことから令和元年防災功労者内閣総理大臣表彰を受けた厚真消防団が表彰状を披露しました。

また金澤兄妹による無火災祈願と地震による犠牲者への慰霊の太鼓演奏が行われ、防火や防災に対する意識を新たにしました。

一丸となって町の発展を願う 6団体新年交礼会

町議会、JAとまこまい広域、土地改良区、農業委員会、苫小牧森林組合、商工会の6団体主催の新年交礼会が1月7日、総合福祉センターで開催され、約160人が出席しました。

寺坂文秀商工会長(69歳)が「今年是一日も早く明るい話題を共有できるように、皆が一丸となって取り組んでいきましょう」とあいさつ。6団体の代表と宮坂町長の7人による鏡抜きなど、新年の幕開けを盛大に祝いました。



町長ら代表7人による鏡抜き



交通事故のない町を願い玉ぐしをささげる参列者

事故のない年に 交通安全祈願祭

町交通安全協会（大浦真則会長）による交通安全祈願祭が1月11日、総合福祉センターで行われ、同協会員、自治会、事業所などから約40人が参列し、今年1年の無事故を祈願しました。

祈願祭終了後、大浦会長(71歳)は「昨年は復旧事業で交通量が多かったが、交通事故死はありませんでした。今年も同様に交通安全活動にご協力いただきたいです」とあいさつしました。

海難事故防止へ 浜厚真救難所出初式

日本水難救済会浜厚真救難所（木戸嘉則所長）の出初式が1月18日、鶴川漁協厚真支所で行われ、所員7人や出席者は1年の海難事故ゼロを願いました。

木戸所長(58歳)が「日々漁業に従事しながらの救助活動ではありますが、海難事故発生の際には所員一同、初期目的達成のため、救助活動にまい進する所存です」と答辞を述べ、所員たちは決意を新たにしていました。



監督官の宮坂町長に答辞を述べる木戸所長

鶴川漁協厚真地区女性部が 北海道社会貢献賞を受賞



感謝状を受け取った村上部長

鶴川漁業協同組合厚真地区女性部(村上裕子部長)が令和元年度北海道社会貢献賞(森を守り緑に親しむ功労者)を受賞し、12月17日に札幌市のホテル札幌ガーデンパレスで表彰式が行われました。

同部は昭和32年の設立当初から前浜の美化活動として清掃などに取り組んでおり、平成7年からは青年部と共に「木を育て海を守ること」をテーマに町内各所で植樹を行っています。森林保全や森林づくりの大切さを伝える活動が高く評価され、今回の受賞となりました。

村上部長(67歳)は「これまでの部員や周りの協力があって受賞に至ったと思います。今後も森林を守る活動を少しでも長く続けていきたいです」と話していました。

厚真リハビリセンター、豊厚園、あつまデイサービスセンター 厚真福祉会3施設 移転改築工事地鎮祭

北海道胆振東部地震で被災した障害者支援施設「厚真リハビリセンター」、特別養護老人ホーム「豊厚園」、「あつまデイサービスセンター」の移転改築工事地鎮祭が12月18日、施工業者主催で新町の建設予定地（新町町民広場パークゴルフ場）で行われました。法人関係者や施工業者ら45人が参列し、くわ入れや玉串を捧げ、工事の安全を祈願しました。

新施設は鉄筋コンクリート造の地上2階建てで、延床面積は約6,090平方メートル。

本郷地区にあった旧施設には震災前まで108人が入所していましたが、地震で建物が損壊し町外の施設へ避難していました。現在、デイサービスセンターの利用者は、京町地区の高齢者共同住宅に併設している、いきいきサポートサロンを利用し、入所者約90人は、昨年1月21日から新町地区にある応急仮設福祉住宅で生活しています。

施設を運営する社会福祉法人北海道厚真福祉会の岩筋雅弘理事長(72歳)は「施設が被災し、再建できるのか不安でしたが、皆様のご協力により施設の着工を迎えることができ感謝しています。利用者が安心して生活して過ごせる施設運営を目指し、職員一同努めていきたいです」と話していました。

施設は応急仮設福祉住宅の南側に建設し、工事は今年12月中旬の完成を目標に進められています。



玉ぐしをささげる岩筋理事長



建設予定地の新町町民広場パークゴルフ場



新施設の完成予想図